

第1回 羽田空港D滑走路破損事案対策検討委員会 議事概要

日時：令和8年6月10日（水）15:00～16:30

場所：関東地方整備局東京空港整備事務所3階会議室

事務局より説明後、委員から以下のような発言があった。

- 再発防止が最も重要である。滑走路接続部の破損とタイヤバーストとの因果関係を立証することは難しいと思うが、予断を持たず、各種データを収集した上で、あらゆる可能性を排除せず検証を進めていくことが必要ではないか。
- 航空機の走行位置や載荷頻度といった客観的データを幅広く収集し、検証を進めていくことが必要ではないか。
- タイヤバーストが発生する条件や頻度等の基礎的な情報について整理・把握し、原因分析として共有していくことが有効ではないか。
- ゴムジョイントの設計時に想定された外力条件と、供用後の実際の外力条件との違いについて確認を行うことが必要ではないか。
- 予防保全措置については、妥当と考えられるが、鋼製部材の撤去により既設部材と構造条件が変化している部分については、周辺への影響も含めて継続的に監視していくとともに、必要に応じて予防保全措置の方法の見直しも必要ではないか。
- 点検方法については、目視以外の点検方法を含め破損の原因究明の結果を踏まえた見直しを検討すべきではないか。

以上